

2018年10月 定例自然観察会実施報告書

2018年10月17日
6班

I 概要

- 日時 2018年10月13日（土）10:00～15:00
- テーマ 秋色を探して表六甲の尾根道を歩く
- コース 六甲ケーブル下駅～展望広場～油コブシ～寒天山道分岐～六甲ケーブル山上駅
- 参加者 ビジター 34名 会員 31名 合計 65名（内 6班員 16名）
- 配布資料 観察会コースマップ及び植物リスト
- 説明リーダー 安岡、中島裕、松本、吉野、山田

今秋は、大型台風と秋雨前線の影響で下見を重ねることができず、代わりに自主的な下見会等で、6班での研修がままならず少々不安を抱えながら今日の日を迎えた。けれど、久しぶりの青空の下でのスタートは、そんな不安を吹き飛ばすように素晴らしい定例観察会を実施することができた。

集合場所の六甲ケーブル下駅では各自お手洗い等を済ませていただき、ケーブル乗降客の迷惑にならないように舗装路を歩いて、登山道入り口に案内をして受付を行った。山道へと続く階段を上った場所で5班に分かれて10時頃出発し、観察会をスタートした。

II 観察記録

集合場所出発

登山口から花穂は長く先の垂れたアキノエノコログサ、黄色い小花のセンダングサ、蚊帳の形のカヤツリグサ等の秋の草花を見ながら急階段を上る。

少し進んだ場所に、平成7年の阪神淡路大震災で崩落した森林を土砂防災の観点から、「様々な高さの木や下草がバランスよく生え、いろいろな樹齢や樹種により構成された樹林」を目標とした『六甲山系グリーンベルト整備事業』の看板があった。ガマズミ、ウワミズザクラ、マユミ、ヤマザクラ、ムラサキシキブ等多種多様な木が見られる。この事業は、市民団体や企業が森づくり活動を進めている。この地域に自然に生えている樹木ではないが、この整備により植えられた樹木の生長が見られ、今の六甲山は、ほぼこれらの木が中心となっているようだ。

この時季は、その中でガマズミの赤い実が、六甲の山の秋を彩っていて、とても美しい。

ガマズミには、よく見られる種類として「ガマズミ」、「コバノガマズミ」「ミヤマガマズミ」がある。葉先、葉縁、葉脈、果実の長さは、それぞれ違うが、春、白色の小さな花をつけ、秋には真っ赤なポリフェノールたっぷりの実をつける。この実を使い、ビタミンCたっぷりの飲料を作っている地方もあるということだ。



アキノエノコログサ



カヤツリグサ



ガマズミ

ガズミの木近くの日当たりの良い林縁にヒヨドリバナの白色の花が数多く咲いていた。フジバカマを食草にする蝶アサギマダラは類似種のヒヨドリバナも食草にしており、ちょうどやってきた。

高度を上げながら進むと、ヤブムラサキ、ムラサキシキブのはっきりした紫色の実が見えた。ヤブムラサキは、ムラサキシキブと較べると果実数は少ないが実は大きい。葉の表面に毛が多くビロード状だ。ムラサキシキブは多くの果実をつけるが、実はヤブムラサキより小さい。葉の表面には毛はあまり生えていない。

第一鉄塔を通過して展望台へ

コマユミ、ニシキギ、エゴノキ、クロガメモチ、シロガモ、リンボク等の木、タツナミソウ、ナガバタチツボスミ等の草花を見ながら進むと、マテバシイの木があり、大きなドングリの実が落ちている。マテバシイは日本で2番目に大きなドングリができると聞く。日本には22種のドングリがあり、日本一の大きさはオキナワウラジロガシだ。マテバシイのドングリは秋の早い時季に実るので、あまり落ちていなかった。堅果はタンニンが少なく食べられる。防火林としても植栽される。他にクヌギやアベマキもある。

高さ2～3mほどのイスノキが現れる。春に鮮やかな赤の花が咲き、秋のこの時季は、薄茶色の2本の角のようなものがついている実をたくさんつけている。六甲山地の照葉樹林であるこの地に、群生する。イスオオムネアブラムシの寄生で「虫えい」ができ、大きなものは5cmにもなる。この虫えいを吹くとヒョウヒョウと鳴るため、別名ヒョンノキと呼ばれる。



ヒヨドリバナとアサギマダラ



イスノキ (実)



イスノキ (樹木)

展望広場 (昼食場所)

急な階段を上がり終えると市街地や港が見える広場に出る。急な山道を登ってきたので、日当たりのよい草地にたどりつきほっとする。近くには、アザミに似た多年草、

タムラソウの淡紅紫色の花がきれいに咲いていた。

茎は直立し1m程で、筒状花の直径は2～3cm。



案内を聞きながら歩く



タムラソウ

油コブシ三角点周辺～寒天山道分岐点周辺

緩やかな坂を上っていくと、木肌に特徴がある樹木が見えてくる。リュウブの樹皮は褐色で薄片となって剥がれると、鹿の子模様となり、家屋の床柱として使われるという艶のある美しい木だ。

この辺りの山道には、ウリハダカエデ、カナクギノキ、ケヤキ等、樹皮に特徴がある木々が多い。

また高度が上がると、生育する樹木に変化が見られるようになった。その中で、油コブシ三角点を過ぎた辺りで、笹の葉の様子が急に変わってきた。登山口からずっとネザサが高木や中・低木の下草となっていた。（ネザサは、自然性の高い森ではなく、河川周辺や道ばた等低い場所に生えている。）

標高600m以上のこの辺りからネザサと置き換わり、ミヤコザサが生えている。ミヤコザサは、茎（笹では稈）の節を触ると丸くふくれている。稈（かん）が細くて枝分かれしないのがミヤコザサの特徴だ。

半日陰の林縁には、コアジサイが見えた。花期は終わっていて花の後に果実をつけていた。

コアジサイは、装飾花がなく両性花のみという他のアジサイとは一風違った花で、六甲山中腹を代表する花の一つといわれる。



コアジサイ



アセビ林



ミヤコザサ

大木の下に、薄桃色で2～3cmほどの花が顔を出しているのがコウヤボウキ。落葉小低木だ。高野山では、この枝で箒を作ったため名付けられた。枝は2年で更新され、本年枝と前年枝では葉の形が違うという木だ。

イヌブナ、オトコヨウゾメ等を見ながら表六甲の尾根道を歩き、ケーブル山上駅へと向かった。

Ⅲ 感想

表六甲を代表する登山道「油コブシコース」は、急な坂道や階段が多く、険しい道だと感じる場所が幾つかあった。それでも登ると真っ赤に色付いた木の実やピンクや白、紫色の花々が迎えてくれ、ほっとしたり笑顔になったりできる。

秋の始め頃に下見に出かけた時は、リンボクが真っ白の花をたくさんつけ、とても美しかった。

時季を変えて登る楽しさを味わいことができるコースだと思った。



コウヤボウキ